

HSK

どろじん

第 33 号

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可
H. S. K通巻227号

発行日 平成3年3月10日
(毎月10日発行)

編集 北海道腎臓病患者連絡協議会
札幌市北区北35条西5丁目1-10
AMS南麻生308号

発行 北海道身体障害者団体定期刊行物協会
札幌市北区北13条西1丁目
神原義郎

平成3年 早春号

私たちを巡る医療と環境



〈アネモネ〉 道展会員一水会員 田中祥三氏作品

北海道腎臓病患者連絡協議会

「未(ひつじ)年」

北海道腎臓病患者連絡協議会

会長 岩崎 薫



ウマからヒツジへバトンタッチ、今年も可愛いヒツジを年賀ハガキにプリントされて沢山参りましたが、おだやかな未のよう今年もあやかりたいものです。

話は変わりますが、正月のテレビでは一本のタスキに一個の球に銀盤の上に青春を謳歌する

若者たちの躍動が画面一杯に映し出されています。「この刻(とき)のため」の普段の鍛練努力が鮮やかさと感動を呼ぶのではないでしょう。学ぶことの多く年末年始はこのほか刻のたつのが早いものです。

今年の干支(えと)は未で動物では羊があてられています。羊は性格温順で人に慣れ易く平和的な動物で古代に西アジア中国で家畜化されたと聞いておられます。このためか漢字には「羊」を含んだ文字は多く、「大漢和辞典」には180を越える文字が登場するのです。しかも字義も

美、祥、善、義などよい意味をもつ文字が多いのも特徴です。このように未の動物イメージは実におだやかで平和そのものですが、歴史のつづる未年は波乱に満ちています。

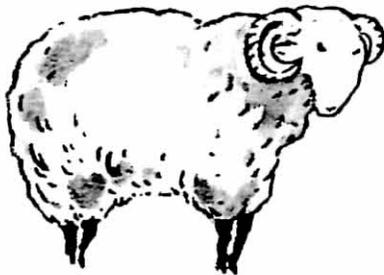
古くは長崎開港、廃藩置県、戦後はガットの創設など「開明」と「大変革」の未年を記録しております。このような歴史をなぞられるまでもなく、今年の未年も激動の基調はかわりないようです。

家畜羊の発祥の地といわれる中東湾岸は1月17日、アメリカを主体とする多国籍軍とイラクとの戦争が勃発し、イラク占領下のクウェートの戦略拠点へ空爆を続行し長期化するのではないかと囁かれています。

未年幾千年もの昔から人類に計り知れない文化を与え、我慢強く集団生活にも順応する羊に私共もあやかりたいものです。本道では明治7年、渡島管内の七飯町で牧羊が始まったそうです。

未年を終える明年は第22回全腎協総会が札幌の教育文化会館で開催されます。平成4年5月です。患者会の皆様の一人でも多くこの総会に出席して全腎協の患者運動をこの眼で見きわめてほしいものです。

今年も未の如くおだやかで1年を過ごせませすよう会員の皆様共々頑張りましょう。



私たちを巡る 医療と環境



北海道腎臓病患者連絡協議会

事務局長 堀井 和彦

■脳死臨調初の公聴会開催

平成2年3月に首相の諮問機関「臨時脳死及び臓器移植調査会」(脳死臨調)がスタートしてから初めての第1回公聴会が昨年11月名古屋で開かれました。平成4年1月の脳死臨調の最終報告書づくりをむけて、一般国民のさまざまな意

見を広く汲みとるのが狙いです。今後各地での公聴会が計画されています。

この日の意見発表者は、中部8県に住む保健婦・公務員・学生・主婦・弁護士・医師の計8人です。この中には人工透析を受けている福井腎友会の会長が、移植で性格まで明るく変わった知人の例を挙げ、「ぜひ善意の臓器提供をお願いします」と移植を待つ人々の期待を伝えていました。

脳死・移植問題で国民の合意点を見つけたことは大変難しいのですが、今後ともたくさん都市で公聴会を開催して、審議の進み具合や争点を積極的に国民にアピールしてもらいたいものです。

■看護職員の不足

現在、看護婦等の不足が叫ばれています。厚生省は昭和49年に第一次看護婦需給計画を策定し、一応計画目標に達したといっていますが、現実には補充されたのは国立、公的病院の一部に過ぎず、殊に私的病院は相変わらず切実な慢性看護婦不足の状態がつついていきます。

この先、老人医療を含めての人

院患者の増加、医療技術の高度化、老人保健施設の拡充、地域ケア活動に伴う訪問看護や在宅ケア活動事業推進を控えて、看護職員の不足はますます著しくなるでしょう。看護職員の養成と数の確保に国および自治体は真剣に緊急の対策を講じて欲しいものです。

■老人患者負担大幅引上げ

厚生省は老人保健制度(70歳以上が加入)の見直しについて患者一部負担を原稿の外来1ヵ月800円を1,000円、入院1日400円(1ヵ月12,000円)を1日800円(同24,000円)に引き上げる方針を固めました。また今後の患者一部負担の改定では「毎年度の医療費の伸び率」にスライドさせる定期引上げ方式の導入も合わせて制度化する方針です。

基礎年金だけの低所得者への配慮や、他の健康保険制度への影響等々を注意深く見守って行かねばなりません。

■社会福祉8法改正へ

この社会福祉8法とは、1、老人福祉法、2、身体障害者福祉法、3、精神薄弱者福祉法、4、児童

福祉法、5、母子及び寡婦福祉法、6、社会福祉事業法、7、老人保健法、8、社会福祉・医療事業団法の8法のことを総称しています。この福祉8法の改正の大まかなポイントには福祉事業の権限や費用を大幅に地方自治体に委譲させるものです。

そこでの問題点は、地方自治体の財政状態で受益者への利益や負担に差別がでてこないかと懸念されることです。

■透析患者、通院に介護の壁

人工透析を受けている人たちで、目が不自由になったり足腰が弱かったりして通院に助けの必要な患者が増えています。核家族化が進んだことで、介護の人手がなく、やむなく入院に追い込まれるケースも目立ってきています。

全腎協は昨年9月に「要介護患者問題対策委員会」を発足させました。年内にも会員を対象に実態調査をして、患者や家族の抱える問題点を探ることにしています。調査結果を基に、介護と透析を併せて受けられる施設づくりやヘルパー制度の拡充等を国や自治体に要望していくことにしています。

ブレックク便り

小樽ブロック

倶知安厚生病院透友会の活動

平成2年度倶知安厚生病院透友会第6回総会が開催されて以来、9ヶ月がすぎようとして居ます。私達透友会は、今から6年前透析患者2名、医師1名、透析機2台の状況から開院した状況にあり

ます。

倶知安町を含む12町村人口合計63、719人、このような状況の中現在は倶知安厚生病院だけが透析治療院となっており、現在ベツト数が平成2年度改築により拡張されて19のベツト数になりました。医師や看護婦さんの不足から現在血液透析を受けておられる患者さんは30名、CAPD治療患者4名、計34名が治療を受けている現状にあります。まだまだ他町村には倶知安厚生病院での治療を希望されている方が数多くおられるようですが、なにせ現状では看護婦さんの不足から患者さんの受入れが出来ない状況にあります。どうぞ道腎協の救援、心からお願ひ申し上げます。尚総会後の活動計画として8項目の活動方針としており



ましたが、その内容を報告を申し上げます。

総会は4月29日、倶知安町琴和会館において家族を含む病院の先生、スタッフの皆さんの参加受けながら総会を開催する事が出来ました。

医師からは最近の透析治療の説明などスタッフと患者さん交流をします。深まる内容となり会費1、000円で会食をしながら平成2年のスタートとなりました。

8月26日は倶知安町福祉祭りが実施され、私達透友会もその中に参加をして各売店の中にカキ氷店

を開き開店中晴天にめぐまれ、たいへん売上もよく忙しくたいへんでしたが、透友会の資金調達のため家族の応援を受けながら頑張りました。おかげ様で利益として2万5、000円ほど社協から受理出来た事、仲間一同で喜び合いました。これからの会の活動資金にあてようと思っています。10月9日、観楓会を今年度は日帰り予定で実施され、参加人員23名、スタッフ家族を含む楽しい一日を過ごす事が出来ました。

スタッフの皆さんがゲームを計画され、時間を忘れて楽しい思い出になりました。

12月9日、倶知安町琴和会館において忘年会実施。参加数も23名、スタッフ皆さんも参加され会費1、000円で実施。日頃病魔にやまされている私達にとって今日の一日はどんなにか楽しいひと時でありました。忘年会終了後は一部でありましたが、岩内町まで行きボーリングを何年ぶりに楽しんできました。以上の内容で平成2年度の事業の報告を致します。

尚、私達透友会員の中に作詞、作曲、アコーディオンで中村敏郎



さんが私達透友会に透友会の唄を
作詞して戴き、宴会の都度皆なで
合唱して透友会の唄として楽しんで
おります。

透友会の唄

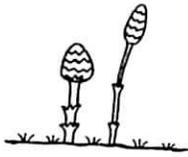
作 詞
作 曲
アコーディオン 中村 敏郎

- 1、澄んだ青空聳え立つ
羊蹄山の麓町
俱知安厚生病院の
心結ばれ人々の
我等の集い透友会
- 2、慰め励まし助け合い
共に手を取り親睦の
福祉の充実旨として
組織の力を強めよう
我等の集い透友会
- 3、ニセコ連峰紅葉の
岩尾ヌブリが招いてる
家族伴い観楓会
景色見取れるバスの仲
我等の集い透友会
- 4、楽しく弾む宴会の
唄にゲームに夜も更ける
軽い疲れを湯で流し
夢路に描く明日の道
我等の集い透友会

透析者の唄

作 詞
作 曲
アコーディオン 中村 敏郎

- 1、北風荒れる吹雪道
励ます妻に見送られ
寒さに耐いて重い足取りで
明日に命をつなぐため
向ふ病院透析者
- 2、優しく今日も迎いられ
手厚い看護が身にしみる
白衣の人のいたわりが
宿命に負けず生きようと
ベットの上の透析者
- 3、時計の針の進むもどかしさ
つらさに耐える5時間の
目蓋、とじれば幻しが
飲みたい食べたい誘惑が
負けずに生きよう透析者
(報告 山下喜二)



旭川ブロック

だてクリニック友の会の新年会

1月20日、だてクリニック友の
会の新年会がレストラン古譚荘で
行なわれました。

昭和62年7月に開院。まもなく
患者会を発足させましたが、早い
もので、新年会も4回目を迎える
に至りました。

当日は、院長、事務長はじめ病
院スタッフの方々を含め総勢40名
近い参加者で賑やかな会となりま

した。

まず伊藤会長より「透析を避け
ることはできないけれど、心は前
向きに明るい生活を送ろう」また
先生からは「自己管理に気をつけ
て良い年を」とそれぞれ心のこもつ
た挨拶をいただきました。

引き続き先生から恒例となつ
ている長期透析者（今年は10年、
15年が各1人）への記念品の贈呈
が行われました。この2人の方
は、さらに透析記録を伸ばしてい
ただくのはもちろん、他の会員た
ちもぜひ1年1年を大事に積み重
ねて、2人の記録に追いつき追
越してほしいものと思いました。

次に、事務長の音頭で宴会に移
りました。今年の料理は、バイキ
ングで豪華なごちそうが並び、目
移りしそうで、私などは取り皿を
持って右往左往するありさまでし
た。日頃、同じ病院でもゆっくり
話す機会が少ないので、それを埋
めるごとく、それぞれのテーブル



では飲みながら食べながら、何やら賑やかな話が続いていました。

そのうち、勝抜き戦で輪投げゲーム大会が始まり、優勝景品のお米のササニシキを目指して、みな力が入りました。結果、優勝はなんと伊藤会長となり、このゲームが年齢には関係のないことが実証されました。

そのあとカラオケも楽しみ、本日の出席者で最高齢ながらも元気にがんばっておられるKさんのパンザイで締めくくりお開きとなりました。

苦小牧ブロッツ

1991年度総会兼新年会

つくし会は会計年度が1月～12月となっている為、例年総会を新年会を兼ねて行っています。

今年1月27日王子製紙のクラブ、成志会館で行い、岩崎道賢協会長にも遠路来ていただきました。

総会は物故者への黙祷が始まり、小林会長の挨拶、吉田市議の挨拶に続き岩崎道賢協会長による患者会の必要性につき、いろいろと話

しました。

このように今年も楽しく新年会を終えましたが、世界に目を向ければ中東では、正月明け早々に湾岸戦争が勃発してしまいました。彼の地にも透析患者は存在しているはずで、彼らはどのような状況にあるのでしょうか。

平和の尊さに思いを寄せながら、来年も、また全員が元気に新年会に出席できることを祈りつつ散会しました。

(報告 藤田 勉)

され出席者には良く理解出来たものと思われます。

議事は議長に新沼さんを選び、90年度事業報告、決算報告、会計監査報告、91年度事業計画と予算案を了承し、役員改選を行い、5年間会長を務めて下さった小林会長に変わり、村田会長が選ばれ、その他役員も決められて総会を終え、会場を変えて午後より新年会

に移りました。

今年の会には初めて参加された会員が4分の1に達し、参加人数はあまり変わらないものの和やかな新年会となり、テーブルを囲ん

室蘭ブロッツ

晩秋のニセコ新見温泉をたずねて

去る10月28日、日曜日秋晴れの天候のもと、三施設合同バスレクを実施しました。

室蘭市障害者センターバス「はるかぜ号」とレンタルバス2台に分乗し、ニセコ山系新見溪谷にある新見温泉へ向け会員・家族総勢37名で出発進行!!

途中、秋深き洞爺湖をながめ、秋空高くそびえ立つエゾ富士、羊蹄山のみもと「じゃがいものふるさと」真狩平野をスイスイ走る。

今年例年になく暖かく10月末とはいえ、まだあちこちに紅葉が残りが眼に入るたびにバスの中はワア/きれいの連発、すばらしい眺めです。

バスは蘭越町に入りいよいよ山

で御馳走を食べ閑談し楽しい時間を過ごしました。

残念な事にカメラを持った人がいなく写真を写す事が出来ませんでした。

(報告 廣岡)

登り、白樺林の黄色の葉がまぶしい曲がりくねった道をどんどん登り、ようやく新見温泉へ到着。

途中休憩を含め2時間20分、1



10 kmの行程でした。

ここで一言、新見温泉についてご案内しましょう。

この温泉は明治初期に新見氏によって発見された歴史のある温泉です。

場所はニセコの蘭越町より14 km新見溪谷の中腹に位置します。

ホテルは2軒、他は何もない山の中です、私たちは新見本館にお世話になりました。

泉質は含硫酸温泉で無色透明なきれいな温泉です。効能は特に神経痛、リュウマチに良いようです。

ホテルは静寂なたたずまいの中にあり、環境的にも申し分ありません。

一年を通じてお客も多く、特に湯治客が遠く札幌、旭川方面から来ているそうです。

温泉に興味のある方はどうぞお出掛け下さい。

さて、私たちは昼食の後めいめいお風呂へ、混浴、露天風呂が好評で思いおもいに楽しんだようです。

休憩の3時間もあつという間に過ぎ、記念写真を撮りバスへ分乗、帰りはニセコ山越えコース、山一

面が白一色の白樺林、左手に遠く日本海を望み、右手にニセコ連山、天候も良くすばらしい景色の連続で少しは命の洗濯が出来たように

医療講演会開催する

当会が毎年行っています医療講演会に、今年は道央の滝川市から腎友会滝川クリニック院長、菅原剛太郎先生をお迎えし、去る11月25日(日)室蘭市障害者ふれあいセンターにおいて患者・家族・施設スタッフ合計37名の参加で行われました。

また来賓として沢山クリニックの院長先生が出席されました。テーマは長期透析における合併症、特に血液・カリウム・骨代謝障害についてとりあげました。

菅原先生の熱のこもった2時間の講演、特に骨の異常についてレントゲンのスライドによる説明は我々患者にとって未知な部分であり、今後の透析生活を続ける上で大いに勉強になったと思います。講演の後先生は4、5人と個別相談をされました。

思います。

途中何事もなく無事帰着、さて来年は何処に行きましようか？

いて 榊森永乳業

上記2点をとりあげそれぞれのメーカーから説明を受けました。

また当日森永乳業(株)のお招きで、札幌北クリニックの栄養士、佐藤先生がお見えになられ、低リンミルクと豆腐の使用経験などについてお話を伺いました。

講演会は午後1時から始まり4時までの3時間フルに活用されとても有意義でした。

(報告 佐藤利國)

十勝ブロック

会員の結婚

十勝地方腎友会会員、塚本義彦

君(30歳)がめでたく結婚致しました。

塚本君は、昭和56年10月透析開始し10年余り経過し元気で通院しております。

帯広第一病院で透析患者として通院している時に、看護婦さ



んとして勤務した時のてるみさんとの出会いが始まったのです。(現在はずとう病院に通院)2人の心が一致し平成2年6月17日吉日に結婚とあいなり、祝賀の宴を親戚、友人、知人等の出席をえて盛大に行われました。

さて、塚本君は野菜畑作農家として大きな畑作で、幕別町千住の秋の大根の収穫が有名で真夏の暑い日でも彼は一生懸命畑作に出掛けている姿は透析患者としての手本である事でしょう。

塚本君の長期透析患者として普通の人と変わらない生涯が出来る事に私達も病気に負けず良き生活であって社会復帰に頑張っていくたいものです。また、塚本君は月水金と週3回、午後1時からの4時間透析をしています。透析が無い時間の許す限り夏には畑作に精を出し畑作が終ると冬期間には自宅から新得町へ10kmもある喫茶店へと勤めているのです。

彼は63年8月20日、9月10日にかけて東北、関東方面に単車にて1人旅行する元気な塚本君です。彼の家族構成は、お父さん、お母さん、てるみさん、義彦君と4人

家族ですが、今年3月には義彦君とてるみさんとの間には、可愛い赤ちゃんが誕生する予定です。一

道東6地区合同懇親会

毎年開催されている道東6地区合同懇親会が、今年は何年より少し時期は遅れましたが、11月17日(日)から18日(日)にかけて行われました。今回は十勝地方腎友会が当番にあたり、十勝川温泉の観月苑に於いて、紋別の参加者はいませんでした。北見21名、網走10名、

段と賑やかな家族になり本当におめでたい事と思います。

(報告 佐藤武夫)



釧路13名、根室6名、十勝26名と5地区合わせて合計76名が参加し、お互いに親睦を深めました。参加者の中には子供3人も含まれており、家族の方も参加、また、帯広西病院看護婦の野田さんも参加していただき、盛大に道東6地区合同懇親会を行うことが出来ました。この懇親会で一番盛り上がったのは、やはり会食後のゲーム、カラオケでした。会食は午後6時半より始まり、5地区の腎友会会長がそれぞれ挨拶され、同時に各地区からの参加者が紹介されました。

てもらっている看護婦野田さんが、今回も協力していただき、今までは違った5地区対抗のゲームで大変盛り上がりしました。また、例年どおりのビンゴゲーム、今回は景品に限りがあるということで、最後に残る一つの景品に至るまで全員が真剣になりました。ゲーム後はカラオケを楽しみましたが、各地区より2名づつ唄ってもらったところで丁度時間となり、十勝の木村会長の唄で最後を飾りました。そして、根室の岡田会長による万歳三唱で、懇親会の成功を祝いました。夜になっても、5地区腎友会の各会長が集まって話し合いが行われ、今後の道腎協、腎友会の活動へ向けて様々な意見が出され、本当に有意義な懇親会となりました。

最後に今回懇親会に参加していただきました各地区の皆様、懇親会の開催が例年より遅れましたことと、当日、こちらの準備等において不手際など行き届かなかったところがありましたことを、この場を借りてお詫び申し上げます。

(報告 岡崎由紀夫)

釧路ブロック

釧路腎会恒例新年会!!

全道各地区の皆さんお元気ですか。年が明けて、それぞれに闘病に、仕事に、生活にと立ち向かわれていることでしょう。私達釧路腎会でも、新年を迎えて会員全員が元気で迎えていきます。そこで、先日実施した新年会の様子をお知らせ致します。

平成3年1月27日(日)、会員と家



族合わせて45名ほどで、釧路市栄町会館において開催されました。開会に先立って、上田弘会長が「ご苦勞様です。皆様の御協力で今年一年もよろしく願います。」と新年の挨拶を述べた後、来賓として伊藤武一釧路腎会顧問が挨拶に立ちました。その中で、「今年は道議会議員選挙の年、私も5期目に挑戦いたします。皆様のあたたかいご支援をお願いします。」と話されました。次に、お客様として林田クリニック院長林田紀和先生が一言ご挨拶されました。

「最近ではエリスロポエチンができたので、マドで苦しむ方が少なくなり、透析患者さんの生活も楽になったことでしょうか。」と励ましてくださいました。又、昨年開院された釧路泌尿科クリニック院長久島貞一先生が初めて新年会に参加してくださいました。そうして、釧路

市内の移住者第1号田村和幸さんの乾杯の音頭で宴会が始まりました。出された料理は、スパゲッティ、よせ鍋、オードブル、寿司など盛り沢山。全て薄味になっているのでとても食べやすいと評判でした。腹いっぱいになった頃、ビンゴゲームが始まりました。

佐藤信洋副会長が番号を読みあげるたびに歓声や怒号、更には罵声まで飛び出し大変な騒ぎでした。そんな中で一番に番号が並んだのは協立病院の藤原一文さん。景品のマヨネーズをもらい大変喜ん

オホーツクブロック

道東6地区懇親会開催

毎年恒例の道東6地区懇親会が、十勝地方腎友会の主幹にて11月17日に「十勝川温泉ホテル観月」に於いて開催されました。6地区合わせて総勢70数名の仲間が集まりました。私達オホーツク腎友会は子供1人を加えて10名の参加です。初めての参加の人もおりまして、外の地区の仲間と集いをもつ

でいました。その他福引きでは5,000円相当の景品も出され、みんなの目つきが変わった場面もありました。こうして楽しく2時間ほど過ごしてから、久島クリニックの末永さんの乾杯で終了しました。

今年で釧路腎友会が誕生して15年をむかえます。新年会に参加した方々の中にも新しい顔がたくさんありました。この永い歴史を大切に、これからも釧路腎会はがんばっていきましょうと思います。

(報告 橋本)

ことの不安と楽しみの入り交じった気持ちで車3台に分乗して網走を後にしました。目指すホテルには4時近くに到着致し、準備万端整えてにこやかに私達を迎えてくれました。幹事の皆さん・腎友会の皆さん御苦勞様でした!各自割り当てられた部屋へ入って一服します。お茶と茶菓子を食



いよいよ懇親会です。主幹の十勝腎友会会長の挨拶と各腎友会会長の挨拶並びに会員の紹介があり、乾杯の音頭と共に楽しい一時の始まりです。ゲームあり・歌あり・談笑ありのひとこまです。

ゲームには景品も用意され、会場中に声援と歓声が響き渡ります。大変な盛り上がりようです。私達の会は5人1組の玉運びゲームでは1位を取るなど会員は大喜びです。また、懇親会での楽しみのひとつに会食があります。ひととき検査のことを忘れて、鹿肉の陶板焼きや牛肉のロースト等の御馳走に箸をはこびます。アルコールも少なからず入ります。和気あいあいとした楽しい雰囲気です。皆んなのお膳に向かっているときの顔が印象的です。

べながらの軽いホテル談義です。懇親会まで時間があります。さて！お風呂に入りましょうか」と気持ち一致。肩にタオルの襦袢姿です。湯は茶褐色で北海道随一の植物性モール温泉です。石鹸ののりもよく肌がつるつるする。美肌造りの湯。美人の湯との誉たかくよく暖まる温泉です。湯坪の外には露天風呂がありますが、外気が低いせいか湯温が低く長く浸かっておられません。しかし、男湯と女湯とがこの露天風呂でつながっていて、いつときのアバンチュールを楽しめるとのことです。

いよいよ楽しいひとときも終ります。私達全員の健康と息災を願って、万歳三唱と拍手で解散です。その後は、温泉に入る人・2次会へ行く人・部屋で歓談する人・お土産を買う人など各自思い思いに過ごします。夜は更けて行きます。この懇親会での仲間同士の頑張っ

日からまた始まる透析生活の頑張り喜びにつながることを思います。

千歳ブロック

忘年会開催

10月で4年目を迎え、医院の増築及び山荘の落成と忘年会を兼ねて11月24日祝賀パーティーを山荘にて開催しました。

院長を初めスタッフ全員と患者の50名程が参加して、飲んで食べ

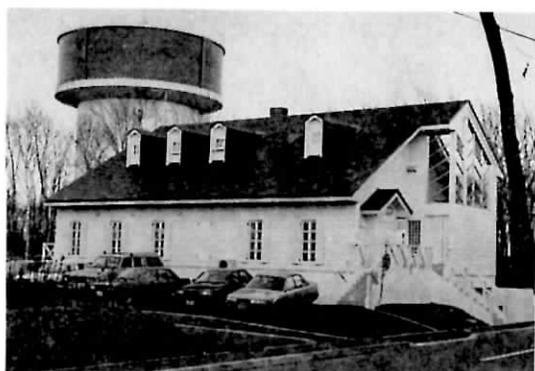
みんなで手を取り合っ生きて生きて生き抜かなくては！みんな眠りにつきます。

てカラオケを歌いみんなで楽しい時間をすごしました。

山荘は、スタッフと患者の交流の場として作られ、ホール、台所、サウナ、風呂、寝室、アスレチック室等有り、又外には、駐車場とバーベキューコーナーが有ります。



医院の増築の方は、透析室、更衣室、休憩室、CT、特室、食堂、手術室、検査室、事務室、院長室等で約1,000㎡の3F建です。透析室は、今までより倍近い広さとなり、電話もコードレスとなり、たため患者への電話もすぐつながる様になり、テレビも約2人に1台となり、VTR、衛生放送も見ることが出来る様になりました。更衣室、休憩室も広くなり、タミ敷きの所も有ります。



手術室も新しくなり、CTも導入され、設備が立派になり、我々患者もよるこんでいます。

ただ残念な事に、このパーティーの2週間程前に、透析室の長である透析士の伊藤課長が43歳と言う若さで亡くなりました。

しかし残ったスタッフにより頑張つて今以上の技術、安全等に心がけてもらう事を願っております。

我々、患者も10数名で始まったものが現在は、50名程まで増えています。患者会の方も30名程となり、スタッフの協力のもとに各種行事に参加しています。10

月の移植キヤンペーンの時なども、血圧測定、パンフレットくぼりと、いつも20名程のスタッフの方々も参加していただいております。

広報員通信

風、大いに動く時代

岡崎 由紀夫(十勝)

又今年も、新年会、サクランボ狩り、観楓会に、スタッフと患者で色々な所に行きたいと思えます。(報告 江島 寛)

風はますます早く動いている。

今や地球上全世界の人口は約50億人を超え、まだまだその数は増加する一方である。人類の科学の進歩は著しく、もはや我々凡人では、その先端技術について行けない水準へと達している。人々はより豊かな生活を望み、その願いとおり、どんどん楽な暮らしが出来る世の中となった。あまりの便利さに人々は満足し、いつの間にか、その便利さをあたり前に思うようになり、知らないうちに人類にとって大切な何かを、何処かへ忘れてしまったような気がする。

日本人初の宇宙飛行士が宇宙へ

行く時代、そんな中で、中東では

湾岸戦争がおこり、多くの人々の生命が奪われている。地球全体において、温暖化現象・オゾン層破壊などの環境問題が大きく取り上げられ、日本においても、死亡交通事故の異常な多発、また、出生率が年々低下、それに伴い今後むかえる高齢化時代への対応において、いろいろな意見が交わされている。世の中が、科学技術の発達と共に便利な時代となり、人々が楽な生活をおくれるようになったのは本当に素晴らしいことである。

しかし、もう便利さだけを追求

し続ける時代ではなくなってきた。あまりにも便利さを追求したために、その便利さによって生じる悪影響に、人々はあまり関心を持たずに現在まで生活してきた。地球そのものが汚染つくされ、人類そのものの生存が危ぶまれるようになった今、はじめて人々は大切な事について考えるようになったのである。人類にとって本当の大切なもの、それは自分達の住んでいる地球である。便利さよりも、自分の住んでいる環境こそが大切なのである。

人類が生活することのできる環境があつてはじめて、高度な科学技術が役立つのであり、たとえば、どんなに便利なことであっても環境を破壊しながらの便利さでは、いづれ人類は自ら破滅への道を進むことになってしまうのである。現在は人類みんなが協力し合い地球を守らなければならない時代のはずなのに、周りを見ると、世界のあちこちで戦争や紛争が絶えることなく続いている。日本においても、交通戦争・受験戦争、その他、金権政治・汚職事件など、それに加えて凶悪な事件が増える一

方である。

このような状況では地球を守るどころの騒ぎではない。人類は皆、「孤独な群衆」の集まりなのか、直接自分に関わりのないことには振り向きもしない。いつの日か、人類に全てのツケが廻ってきて、人類は滅亡するかもしれない。本

湾岸戦争に思う

掛札 聖(釧路)

当はもう、滅亡への道を進んでいるのかも知れない。それでも人々は、ますます便利さを追求し続け、豊かさに満足しながらくらししている。時代の風はますます早く動いている。まるで全てを吹き飛ばそうとしているように。

1月17日に始まった湾岸戦争は、日増しに戦火が拡大しおさまる気配は微塵もありません。アメリカ

側の発表では、「イラクの戦力拠点は悉く破壊したのでイラクの戦闘能力は殆ど破壊した」と言っていますが、イラクのスカッドミサイ

ル攻撃は未だに続いているし、地上軍の進行が始まり一行に衰えを見せておりません。フセイン大統領は強気な放送を兵士たちに送っています。このままいけば、世界中に影響を及ぼすでしょう。

とりわけ、日本はアメリカの言いなりになって90億ドルものお金

を国会の承認も得ないで約束してしまっただけです。

このお金の財源はいったいどうするのでしょうか。「国民から一人1万円の負担をせよ」と政府は当たり前のように言っています。

これに対する国民の反応は、ある世論調査によると、賛成する人・仕方ないという人合わせると5割を越えています。

しかし、このまま政府の言いなりになっていると、今後あらゆる問題で国民に負担をさせる方策をとってやるような気がします。

先頃出された、防衛5カ年計画の費用は22兆円にものぼっています。

このうち、1兆2千億円くらい捻出することもしないで、安易に国民に負担を強いる政府自民党の姿勢はいったいどういうことでしょうか。

更に、90億ドルを出すということとは参戦するに等しいことです。

イラクは「日本を敵と考える」と発表しました。もし、自衛隊機を派遣して攻撃されて隊員が死んだりしたらどうする気なのでしょうか。

イラクに対して報復攻撃でもする気ではないのでしょうか。日本憲法を遵守するという立場に無いことは明らかです。

私たち難病患者は、非常時になると一番困ると思われれます。逃げ

ることもままならないし、耐えることにも弱いのです。また、非常時になると切り捨てられるのも私たち弱者です。歴史がそれを証明しています。

そんな私たちがこの問題に反対していかないということは自らの首を絞めていることになるでしょう。そうならないように根気強く反対の声をあげ続けていきたいものです。

テレビ画面に流される重油で黒くなった鳥の映像を見るたびに悲しい気持ちになってしまいます。地球規模で破壊が進んでいく様を目の当りにして今更ながら、人間のおろかさが感じられます。私たち人間だけの地球ではないことを自覚して早く平和を実現してほしいと願わずにはいられません。

エコロジーについて思う

佐藤清美(北見)

私事で恐縮ですが、うちでは、無公害洗剤を使っております。使っ

ているから例えば家のまわりの環境が良くなった、などという目に

見える効果はありませんが、無公害の洗剤を使うようになってから、手荒のひどかったのが良くなりました。なる程、地球にやさしい無公害洗剤は、体にも優しいのだからつくづく実感しました。

ところで、地球環境が悪化して一番先に被害を受けるのは、子供や老人そして私達のような病人・障害者です。地球環境を守るといふより、自分の健康を守る、という視点で無公害洗剤を使ってみてはどうでしょうか。ちなみに私の使っている洗剤は、難病連で販売しているもので、品質も良く、又、洗濯用石けん、台所用石けん、シャンプー・リンスすべてに詰替用パックがありますので、経済的で、しかも資源の節約にもなります。ちよつと宣伝になってしまいました。皆様どうぞ試しに使って見て下さい。

さて、もう一つ私事ですが、今、ジュースなどのアルミニウム缶の回収を、私はしています。地域によっては、資源として回収している所もあります。アルミ缶は、何度でも再生でき、又、新しいアルミ缶を作るより再生した方が、使

う電気の量も8分の1ですむそう
です。

エコロジーも、気軽に考え、自分のできる範囲ですぐにでも出来る事が多いのです。それに、節エ

読後のひとり言

人工透析に感謝して11年

玉木 八恵子(夕張)



この間、「病院で死ぬということ」

(山崎章郎著・主婦の友社)本を読みました。近代医療の最前線で活躍されている医師が書かれただけあって、凄く迫力を感じました。

内容は、末期ガン患者と、医師との関わりを事実にもとづき、物語として書かれているので読み易く、医師としての苦しみ・悩み・

ネルギー、資源節約するので、生活費の節約になり、健康にも良い。皆様も自分の問題としてエコロジーにとりくんでみてはいかがでしょうか。

盛り上がり欠けていると思いません。

脳死の判定とか、心臓の停止とか、或は生体部分移植とか、単に医学界だけの問題ではなく、今では大きな社会問題にまでなっております。

これらをめぐる賛成・反対・倫理と道徳、社会通念、宗教的な問題、家族の同意など、いろいろな矛盾の中で、ケースバイ・ケースで判断されているように思われます。

私たちは、この運動を地道に続けることによって多くの人々の共感が得られるように、尚一層の努力をしていかなければならないと改めて誓いたいと考えています。

最近では、患者の体験談や医師による診療記録とか多様な書物が出版されています。

どれを読んでも、それはそれなりの価値のある内容だと思えます。興味本位に読むことよりも、書いた人の立場になって読むことの大切さを感じているこの頃です。

おしまいに、皆さんに読んで戴きたい本を紹介させて戴き、ある

日読んだあとのひとり言にしたい
と思います。

○新釈からだ事典 渡辺淳一(集
英社)

○こちら泌尿器科110番 入沢
俊氏(草思社)

○病のかけに横たわるもの 小崎
順子(農文協)

○むんてら 間中喜雄(創元社)

私の半生記

①

佐藤道美(室蘭)



空知郡歌志内町字新歌志内炭鉱
これが私の出生地です。今はもう
廃坑となっております。

JRの砂川駅から歌志内線に乗
り替え神威駅で降り更に一里程山
奥に入った所にあります。

駅からは爪先上がりの坂道で途

○こちら小児科 阿部和男(道新)
○私が医者をやめたわけ(?)
蛇足ですが「こちら小児科」を

書かれた阿部先生は夕張市出身と
か。若いお母さん方には是非読ん
でほしい、と思います。人工透析
の機械に対し何時も感謝の気持ち
であります。

湧き水が出ている。水のみ場が
あり半分と一寸位過ぎた所に峠が
あり、やれやれというように、そ
こからは平坦な道になります。

山間の集落で両側の山腹に炭住
がへばりつき真ん中の谷底を石炭
を洗った真っ黒い川が流れていま
す。ずっと下流でもう一方の山間
からの流れと合流しきれいな川と
なつて空知川へと流れていきます。

人口はどの位いたのでしょうか。
学校は1学年1クラスで35人、40
人で高等科2年までありました。
川を挟んで北側の山腹には一般

炭鉱夫の炭住と共同浴場、一般の
事務を扱う事務所、お寺と墓地、
配給所、学校、病院、洗炭場、炭
坑の入口、そして子供の私は見た
ことはありませんがタコ部屋があつ
たようです。

向かい側には職員社宅と一般の
お店が2店、郵便局、巡査の家、
そして新歌志内炭鉱の入り口の通
称見張り小屋が一軒、それと沢水を
引いて作ったプールがありました。

そこで私は父佐藤謙治、母ツル
の10人目として昭和10年に生まれ
ました。この後に弟が2人うまれ
ています。

男8人、女4人ですが、上の男
の子4人は生まれて1、2年の間
に夭折し、女ばかりが育つので5
人目の男の子は、女の格好をして
しばらく育てたそうです。

それから3人男ばかりが生まれ
男4人女4人が大人になりました。
父はしばしも休まず槌打つび
きの鍛冶屋さんでした。

手先が器用で何でも鉄板で作つ
ていました。特に疥癬になった時
などは風呂桶を作り硫黄泉を入れ
た風呂にいれてくれました。

私は手先の器用さは全然似てな

くて酒の好きなところだけが似た
ようです。

母は落ち着いた人で大きな声を
聞いたことがありませんが、叱ら
れると怖い人でした。

幼稚園の時のことですが、その
日は糊を使つて折り紙で輪を作る
ことになっていたのですが、どう
したことが糊がなく母はごはん粒
で代用するように言つたのですが、
私は糊でなければ駄目だと幼稚園
が遅れる時間になつても泣いてい
たところ、包丁を出してきてこん
な聞きわけのない子は生きていて
も仕方がない、お前を殺してお母
さんも死ぬと言われた時はびっく
りし、姉に連れられて幼稚園へ向
かつたのですが時既に遅く、皆ん
なは幼稚園が終わり坂を降りてき
ていました。

こんなこともありましたが、母
が亡くなる小学校3年生迄が子供
の頃の楽しかった記憶が鮮明です。
お正月の餅搗き、友子の会の元氣
の良い若い衆が手伝いに来てくれ
ます。一升瓶とスルメと蜜柑が箱
ごと、ストープは真っ赤二段重の
蒸籠からは白い蒸気が上がってい
る(この日のために父は毎日勤め

歸りに黒光りした塊炭を少しづつ持って歸り蓄えておく、普段は洗炭後の水を沈澱させた粉炭を使用している)次々に掲ぎ上がります。のし餅、お供え、赤い生姜餅、草餅等々、あつという間に狭い家の中は餅に占領されてしまいます。夏になれば泥鰌とり黒い川と白い川の交わる所を二又と言っており、その二又へは急斜面を木の蔓をつたわって降りていきます。

川上へ川上へと行けば行くほど泥鰌やザリ蟹がたくさんいるし大きなのがいます。がき大将に策とバケツを持ってついていきます。深いところでは大かき泳ぎを習ったりしたものでした。

戦争もたけなわになると学校でお蚕さんを飼いはじめ、全員交代で男女5、6人位で桑の葉取りに山へ入っていったものでした。

籠にそれぞれが一杯取ってきてお蚕さんの上にびっちり敷つめてもシャリシャリと音をたてて驚くほどの早さで食べてしまいます。

だんだん大きくなった白いお蚕さんが透明になり口から白い煙のような糸を吐き出し繭を作った時には本当にびっくりしました。

朝鮮からの友達も転校して来ました。兄弟2人とも同じクラスで金なんとかと言う名前があるのですが分かりずらいと言うことで兄さんは太郎、弟さんは次郎さんと呼ばれてすぐに皆と仲良くなり、一緒に楽しく遊んだり喧嘩をしたものでした。

朝鮮戦争の時は便りの術もなく本当に心配したものでした。

兎の供出もありました。戦地の兵隊さんの為に毛皮が必要と言うことで、私も可愛がっていた茶色の兎を手籠に入れて連れていきました。何十匹もの兎が校庭に集められ他所から来た人に次から次々と因幡の白兎のように皮を剥かれて行くのをこんな事になるのなら連れてくるのではなかったと、一緒に来た友達と只茫然と眺めていたものでした。

こんな田舎でも若い人達がそれぞれ万歳々々と歓呼の声に送られて次々に出征していききました。

事務所の前に大勢の人が集まり、鉦長の挨拶や兵隊さんの挨拶等々あったようですが良く分かりません。日の丸の旗を振って喜んでいたのは子供たちだけで、大人は何

ともいえない顔をしていたのを大人になってから初めて分かったようです。

田舎のことなので戦争の被害は直接は無く、敵機の姿を見たのは終戦になってからです。B29の大きなやつが何機も編隊をなして飛んで来たときはスゴイと子供心にも思わせるものがありました。

それでも空襲警報のサイレンは何回か鳴ったようです。

防空壕へ避難するのですが、防空頭巾と救急袋を持って入ります。その救急袋が楽しみで中で早速食べ始めます。煎り豆、煎り米、乾パン等々、暗い所に入るのでキヤーキヤー騒いで叱られたものです。山の中ですから汽車を見たことのある子供は数える程しかいません。ある日突然誰かが汽車を見に行こうと言うことになり、一里の道を急いで下っていききました。

結構子供の足には長い道のりだったと思います。それでも汽車を見たい一心でせっせこせっせこ歩いていきました。丁度最後の曲がり角をまわった時、機関車が煙を吐いて進行して来るのが見えました。夕暮れの空にポツポツと力強く煙

を吐きながら進む黒い大きな機関車にただただスゲエ、スゲエと皆々感心するばかりです。

汽車が通りすぎるとすぐに帰らなければなりません。辺りは段々暗くなり始めています。帰りは坂道の登りです。いやはやその帰り道の長かったこと、いつまで歩いても家に着かないのではないかと思ったほどでした。やっと家に着いたら案の定こんなに暗くなる迄どこに行っていた、子供達だけこんな遠い所へ行つてはいけなないとコッピドク叱られました。

こんな冒険をしてやつと汽車というものを見たのですが、今度はその汽車に乗ることが出来たのです。母方の祖母が亡くなったことで私も連れて行ってもらえるようになったからです。

母は私の記憶にある頃より、足腰の弱い人で一里の坂道はどうてもい歩けないのではないかと、子供心にも思ったものですが、ちゃんと赤平迄行ってきました。

当然私は祖母に合うのも初めてで最後ですし、祖父や従兄弟に合うのもはじめてです。(祖父は母が亡くなってからも何回か新歌に来

ました)その時葬式というものを初めて見たようです。特にこれとあって印象には残っていませんが、ただ小さい瘦せたお婆さんが寝棺に穏やかな顔ですつぽりと入っていたのが思い出せる位です。

従姉弟にはその後合う機会がありませんが、叔父と叔母も若くして亡くなったので、ずいぶん苦労したようですが風の便りでは今は元気で幸せに暮らしているようです。

母が急性肺炎で倒れました。後志の泊村茅沼からと奈井江から姉が見舞いと手伝いに来ていたようですが、何日かして母の容体がよくなったので茅沼の姉が今日帰るといふ日の朝、父は早出で朝食もとらずに仕事にでかけましたので、私が学校へ行く途中に2食分の弁当を仕事場へ届けることになりいつもより少し早めに家を出ました。母は布団の上で起き上がり元気に冗談を言っていました。

朝の弁当は御飯と御飯の間にカレーを入れた一番弁当の大きなものでした。学校へ行く迄の間父の仕事場で食事をするのを見ていました。

学校では何時間目だったか、小

使さんが先生に耳打ちしています。何事かと思っている先生は私にお母さんの具合が悪いのですぐに帰りなさいと言います。

あんな元気に冗談を言っていた母がと変だなと思ひながら急い3月の雪道を走って帰りました。後ろから見たこともない白い犬が追いかけてきます。家に入ると沢山の人がいました。仕事場にいた筈の父がストーブの前でぐっくりと肩を落として座っていました。

平成2年度国会請願署名・募金集計結果報告 1991.2.18現在

| ブロック名 | 全 腎 協 | | J P C | |
|-------|--------|-----------|--------|---------|
| | 署 名 | 募 金 | 署 名 | 募 金 |
| 札 幌 | 4,971 | 327,365 | 3,178 | 36,855 |
| 小 樽 | 2,469 | 207,692 | 1,125 | 21,000 |
| 旭 川 | 2,191 | 149,517 | 1,110 | 0 |
| 稚 内 | 210 | 14,900 | 120 | 0 |
| 留 萌 | 1,229 | 30,769 | 430 | 8,101 |
| 道 南 | 3,572 | 135,000 | - | - |
| 苫 小 牧 | 1,040 | 104,900 | 550 | 42,400 |
| 室 蘭 | 1,389 | 133,365 | - | - |
| 滝 川 | 224 | 24,400 | 115 | 9,500 |
| 十 勝 | 1,459 | 77,665 | 821 | 27,420 |
| 釧 路 | 1,395 | 24,050 | 1,057 | 17,450 |
| 北 見 | 1,838 | 50,000 | 851 | 0 |
| 網 走 | 891 | 23,000 | 360 | 6,000 |
| 夕 張 | 124 | 10,610 | 124 | 10,550 |
| 紋 別 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 岩 見 沢 | 145 | 2,500 | 141 | 875 |
| 江 別 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 浦 河 | 682 | 8,307 | 244 | 0 |
| 根 室 | 171 | 13,000 | 71 | 0 |
| 千 歳 | 101 | 12,800 | 66 | 2,850 |
| 深 川 | 406 | 37,828 | 163 | 12,200 |
| 個 人 | 22 | 5,000 | 20 | 5,000 |
| 合 計 | 24,529 | 1,392,668 | 10,546 | 252,053 |
| 前 年 度 | 17,181 | 1,239,233 | 8,939 | 236,902 |

※募金配分割合

全腎協募金
 地方ブロック 35%
 道 腎 協 50%
 全 腎 協 15%

J P C 募金
 道難病連 80%
 道 腎 協 20%

※-は地元難支部に納入

国会請願募金について Q&A

Q 募金はどのように使われていますか。

A 皆様から集められた募金は、各地方腎友会では、腎移植キヤンペーンや各種行事の貴重な活動費の財源になっていきます。道腎協では、腎疾患総合対策実現の為に、行動などの各種活動費に使われています。全腎協では国会請願行動への全国の参加者の旅費、署名用紙の印刷などに当てています。

Q 募金は強制ですか。

A 募金については会員の皆様を集められる範囲で納入してもらうことになっており、強制ではありません。しかし、その成果が各地方ブロック・道腎協の活動資金に還元されることでもあり、会員自らの募金も大変意義のあることです。で、要請実現のため、できるだけ多くの皆様のご理解ご協力をいただくようお願いしております。

運転免許試験場への

腎登録カード設置実現

長い間の念願でありました、運転免許試験場への腎登録カード設置が実現しました。1月17日、北海道警察本部交通部運転免許試験課次席の方に、岩崎会長と

堀井事務局長の2名で運転免許試験場への腎登録カード設置の要請をお願いしました。1月31日許可の回答をいただき、道内6ヶ所の運転免許試験場に腎登録カードを

設置することになりました。

2月の初旬に、北海道腎臓バン

クからチラシ、腎登録カードが送付されています。

北海道腎臓バンクへ

臓器移植募金贈呈

1月17日、岩崎会長と堀井事務局長が、北海道腎臓バンクの宮崎事務局長がご不在のため、市立札幌病院地方腎移植センターの平野哲夫先生（北海道腎臓バンク総務委員）を訪ね、臓器移植募金箱より5万円を寄附しました。

全腎協バッジ

販売について

かねてから要請の多かった全腎協のバッジができました。このバッジは全腎協のマークをデザインしたもので、色は濃紺。大きさはたて、よこ1cm弱。定価は一個500円で、お申し込み、詳細については各地方腎友会にお問い合わせ下さい。



《図柄》



背広や洋服など何にでも取付けできます。

町 村 版

北野新聞・羽幌支社
羽幌町南5条6丁目
電 話 0164625225
通訳支社 羽幌町4丁目2
電 話 0163272176

増毛、小平のニュー
ス、広西などの連絡
は 0164425555番へ

ニューサウナで
若さど健康を?



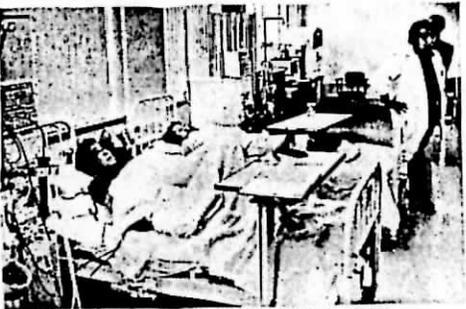
ニウサウナ
羽幌町本町2丁目
TEL.27110
サービスデー
11・11・21日
羽幌町本 700円
営業時間 正午～午後10時

人工透析治療始まる

当面2人受け入れ

羽幌病院 効率的なシステム検討

【羽幌】道立羽幌病院の人工透析治療が十八日から始まった。医師一人、看護師三人の医療体制で、週三回の治療を行う。患者は当面二人だが、スタッフが治療業務に慣れ、病院側の受け入れ体制が整った後、徐々に患者を増やす計画。これまで道庁市立総合病院に通っていた患者の一人は、「通院が分業になった。治療室もきれいで清潔だし」と感嘆しているが、「早く(中部三町村の患者)みんなが治療できるようにしてほしい」と患者仲間のご意見をいっている。人工透析治療の設備は、道立病院としては北見市にのみ、二施設。



道立羽幌病院で人工透析治療がスタートした



増田一雄医師

透析装置は三階の内科棟三病室を改装して通った。広さは要衣室、面談室、機械室を含め約八十四平方メートル。人工透析用のベッドは六床。最新の単相三波脈合流透析装置六台と、水道水を純水に変える逆浸透装置一台を配備した。治療日は火、木、土曜日。医師は川村人工透析センター・増田タリニョの増田一雄さん(五五)、北野通訳研究会を通じて道内の教員資格を持ち、地域医療に協力しようとする意気込みで、増田の増員はその後のこと。一、二ヶ月水金と火土の二サイクル体制や、目交替体制など、効率的な治療システムを幾時一年後には入位を要

け入りたいとしている。増田医師は、「通訳治療の開始は、この地域にとって大きな前進。例えば将来、夏の閑たど天候、病院からの通院も可能になると、患者の立場で治療開始を望んでいる。また、四病室の位置付けを、羽幌の施設はセライト的なもの、合併症などの重症患者はスタッフのそろった病院で治療を受ける。通院できる状況になっ

てから治療に通うようになる」と説明している。新施設で治療を受けた初山別村の藤田勝美さん(五〇)は、「初山別村役場勤務は十七年間、前年に通った人工透析のできる病院がなく、中部の患者は前週に通っていた。羽幌から通った車で(片道)一時間半もかかったが、今日からは二十分。職場に顔を出してからも間に合う。興奮など、天気の良い心もほぐれる」と喜びをこぼしている。また中部三町村に十二人の患者がいて前週に通っていたため

新聞の切り抜きから

富良野圏でも対応

協会病院、取り組み開始へ

道内千一保健医療圏の人工透析施設整備は、通訳台が、自給に向けて体制整備の医療圏のうち、富良野圏内での人工透析対応が開始される見通しとなった。現在、増床・増設の準備を進めている富良野協会の野合病院(新沼中)病院は、この四月をメドに取り組みを開始するもの。長

富良野圏内では、富良野協会の野合病院(新沼中)病院は、この四月をメドに取り組みを開始するもの。長

富良野圏内では、富良野協会の野合病院(新沼中)病院は、この四月をメドに取り組みを開始するもの。長

(北海道医療新聞より)



知床待春 第44回一水会展 田中祥三



歷程(ガンジス河) 第48回一水会展(1986) 田中祥三

田中 祥三 画歴

大正6年 北海道生(函館)
 昭和10年 道展初入選
 昭和13年 国画会展初入選
 昭和14年 道展会友推挙
 以後、国画会、春陽会、独立美術、二科会、日本アンデパンダン展に出品を経て

昭和28年より 一水会に出品
 昭和32年 道展会員推挙
 昭和34年 日展初入選、以後7回出品
 昭和35年～36年 インド、東南アジアに滞在

昭和37年 一水会会員推挙
 昭和38年より 日動画廊の扱いを受ける
 昭和41年～42年 中近東、イランに滞在
 昭和45年より 廣稜会会員(田崎廣助門下に入る)

昭和45年～47年 バリ滞在中、アカデミー・グランド・ショミエール修、サロン・ドートンヌ及びサロン・ナショナル・デ・ボザールに出品、ル・サロン(サロン・デ・ザルチスト・フランセ)にて受賞

昭和59年～ ベニスに滞在

出品招待 バリ、サロン・テール・ラテン、カンヌ、コートダジュール国際美術展、東京、日動画廊—太陽展、日動展、ミニヨン展、三越本店—エトワール現代洋画小品展、現代有名作家展
 札幌、時計台文化会館美術大賞展

受賞 赤光社展—赤光賞(昭11) 道展—フローレンス賞(昭12) 道展—北海道長官賞(昭13) 全道展—北海道知事賞(昭23) 一水会展—一水会賞(昭36) バリ、ル・サロン—銅賞(マンション・オーナブル)(昭46)

個展 札幌—大丸画廊ほか33回道内—9回(室蘭、岩内、旭川)
 本州—日動画廊(東京7、大阪2、熊本2、仙台1回)
 東京日本橋・丸善画廊1回、広島・福屋デパート1回



歷程(イラン人) 第49回一水会展(1987) 田中祥三

※30号から連続で表紙の絵に御協力いただきました。大変ありがとうございました。

平成4年度

全腎協総会北海道開催決定

平成4年5月に開催予定の全腎協第22回総会が北海道札幌市で開かれる事に決定しました。

全腎協の総会は毎年全国持ち回りで開催されており、北海道大会は初めての事でありです。

総会は、午前と午後の2部構成となっており、午前は各事業、会計報告と活動方針等の全体会で、午後からは、医療・生活・会活動

等の5分科会が開催されています。全国各地からの会員が参加し、熱心に各地の活動状況、問題点等が話し合われています。

北海道で全腎協の総会が開催される事は、大変、意義深い事であり、全腎協の運動、そして患者会活動の原点に触れる事ができるのではないのでしょうか。沢山の会員、家族の参加をお待ちしています。

事務局から

☆金沢旅行は定員となりました
どうじん前号(32号)にて、募集しました日通旅行企画、能登の旅は定員となりましたので、締め切らせていただきます。たくさんの方の申し込みありがとうございます。

☆投稿募集

機関紙「どうじん」への投稿を募集しています。どんな事でも良

いです。透析の事、日常生活の事、趣味、特技、旅行、仕事、その他、イラストなども募集しています。患者さん、ご家族の方、スタッフの方など、どしどしお寄せ下さい。
また「どうじん」を読んだの感想、ご意見、要望などもごさいましたら、お寄せ下さい。
特に「どうじん」にこんな事を

載せてほしいなどのご意見がございましたら、お聞かせ下さい。
☆表紙写真募集
「どうじん」の表紙用の写真を募集いたします。写真の簡単な説明などを添えて事務局へ送付して下さい。

必ず本人の撮ったものに限ります。



■おくやみ

寺嶋 定一さん (元道腎協幹事)

平成2年12月6日逝去されました。留萌水無人腎友会前会長であり、道腎協の幹事を昭和57年から同59年迄、務められました。長い間の活動に敬意を表し、ご冥福をお祈り致します。

編集後記

とし前に泣いていたスキー場がこの大雪でニコニコ顔だそうです。やがて来る春をふきのとうの芽が今や遅しと雪の下で呼んでいるのが聞こえそうです。
(村本)

体調もやっと良くなりました。皆様も体力をつけて元気に外に出かけましょう。
(鈴木)

湾岸戦争もやっと終り静かな世の中になりましたが、原油でよごれた海、死んだ動物達は永久にもどりかせん。これ以上美しい地球を、破壊しないでほしいですね。
(永田)

こよみはもう春ですね。しかし北海道には春はまだ遠い。早く雪が解けて、屋外で遊びたいものです。
(堀井)

昭和四十八年一月十三日 第三種郵便物認可 日通巻二二七号
平成三年三月十日発行(毎月十日発行)

発行所 北海道身体障害者団体定期刊行物協会
札幌市北区北十三条西三丁目
印刷所 大輝印刷株式会社

頒価三百円